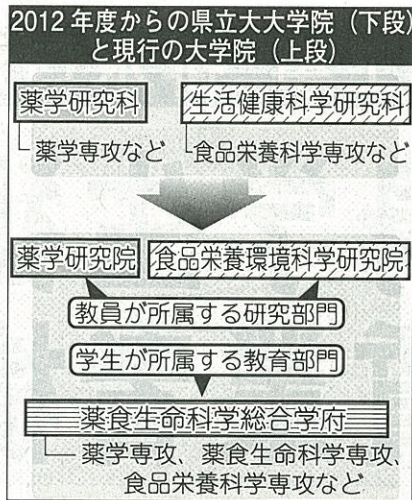


県立大大学院に「学府」

新12年度 薬食融合教育強化

県立大は1日、教育と研究の機能を併せ持つ大学院の薬学研究科と生活健康科学研究科のうち、教育部門を2012年度に統合して「薬食生命科学総合学府」を新設すると発表した。研究部門は別々のままで「薬学研究科」と「食品栄養環境科学研究科」に改編する。



Q 薬食生命科学総合学府は、薬学と食品栄養科学の両学問の知識を兼ね備

Q 学府と研究院
従来の大学院研究科を改編して教育と研究の機能を分けた場合、教育部門を「学府」、研究部門を「研究院」と呼ぶ。「教育部」「研究部」などと呼ぶ大学もある。1

えた人材の育成に力を入れる。医薬品と食品の相互作用や安全性の研究、高次機能性食品の開発などを担うハイレベルな研究者や実務家を育てるのが狙い。博士後期課程には薬学と食品栄養科学の

999年の学校教育法改正で設置が認められた。2000年度以降、東京大や九州大、千葉大、横浜国立大など複数の大学が改編している。公立大では静岡県立大が初めて。

これまでの融合研究は02年度から10年間、世界最高水準の研究教育拠点を育てるために文部科学省が採択する「COEプログラム」として、年間1、2億円程度の交付金が投

これまで両研究科は「健康長寿社会への貢献」を掲げ、茶の抗がん作用を解明したり、ミカンからアルツハイマー病を改善する効果のある成分を発見したりと、「食薬融合研究」に取り組んできた。

融合研究に特化した「薬食生命科学専攻」を新たに設置する。教員は現行と同じようにどちらかの研究院に所属する一方で、大学院生が所属する学府では一丸となって研究指導に当たる。

入されてきた。県立大のプログラムは11年度で終了する。

1日に県庁で会見したため、健康長寿科学の学問木苗直秀学長は「10年間で培った研究をさらに進め、体系の確立を目指す」と強調した。